

市長になって財政を考えました

白石高校で東北財務局による特別授業

7月13日と20日、白石高等学校で東北財務局による特別授業が行われました。この授業は、先日締結された白石高校と東北財務局、宮城県中小企業家同友会、本市による4者間での包括連携協定に基づき行われたものです。

今回実施された「地方財政教育プログラム」では、同校の1・2年生を対象に、国や自治体の予算の仕組みや、自分たちの生活の中で税金が何に使われているかを考えながら、本市の財政と人口減少問題をシミュレーションするプログラムを使い、各グループで限られた予算をどう使えば白石の未来を良くできるのかを「市長」になって考えるグループワークを行いました。

発表したグループからは、人口減少問題を解決するための子育て支援を強化する政策や、スマートインターチェンジの誘致で町全体を活性化するための予算配分をするなど、多くの意見が出ました。



1_東北財務局から税金や予算の仕組みについての話を聞きました 2_グループで話し合った政策を発表しました

「夢」を込めた作品づくり

小原小・中学校「ストーンアート学習」

7月2日、小原小・中学校で地元芸術家によるストーンアート学習が行われました。

小原小・中学校は、本年度から地域密着型のコミュニティ・スクールとして学校運営をスタートしました。「小原学園」を愛称に、小・中学校の連携や、地域住民との交流体験などを行っています。

この日は、小原地区在住の石彫家・清水玄太^{しみずげんた}さんを講師に招き、清水さんがだるま型に加工した市内産の凝灰岩を、児童・生徒20人が「将来の夢」をテーマに色付けを行いました。作品を完成させた生徒は「インターハイでの活躍を願って塗りました。先生にアドバイスをもらい、うまくできたと思います」と話してくれました。講師の清水さんは「地元に貢献しようと講師を引き受けました。一人一人が自由な発想で、個性ある作品になったと感じます」と話してくれました。



1_約8cmの真っ白な凝灰岩に、思い思いの色を付けてきました 2_できあがった世界に一つだけの作品 3_作品を見ながら話す清水さんと生徒

まちを花で美しく！

サンキューロードサポーター活動

6月25日、「しろいしサンキューロードサポーター」の認定を受けているNECプラットフォームズ株式会社白石事業所の皆さんが、会社前の市道沿いに花の苗を植えたプランターを設置しました。

例年開催している植栽活動も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者を大幅に減らして25人ほどで活動を行いました。毎年活動していることもあり、参加者は手際よく作業を行い、通り一帯がきれいな花で彩られました。



▲プランターにたくさんの花を植えました

自分たちの手で地域をきれいに

白川地区清掃活動

6月28日、白川地区で高田川沿道と旧白川中学校の清掃活動が行われました。今年で3年目となる取り組みに、住民約120人が参加し、草刈りやごみ拾いを行いました。当初は一部の地区でのみ活動していましたが、現在は全地区が協力して取り組んでいます。

白川公民館の山田功館長^{やまだいさお}は「高田川の清流と自然環境を守ることは、白川地区の目標の一つです。これからも皆さんの協力をもらいながら継続していきます」と話してくれました。



▲きれいで住みよい白川地区を目指します

感染防止を支援します

白石青年会議所などが学校消毒作業

7月13日、白石第一小学校内の消毒活動を、(公社)白石青年会議所と白石商工会議所青年部の有志10人が行いました。

新型コロナウイルス感染防止のため、市内小中学校では先生方による消毒作業が毎日行われており、その負担を軽減しようとボランティアで活動を始めました。(公社)仙南法人会青年部協賛の消毒液を活用し、校内の机や椅子、トイレや階段の手すりなど、児童が触れる場所を念入りに消毒しました。



▲毎日行われる消毒作業は先生方の大きな負担に。市内各学校への支援が求められます